

第二十九回（令和五年度）

令和独楽吟

橘曙覧顕彰短歌コンクール

主催 福井市・公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会
共催 福井新聞社・NHK福井放送局
後援 福井中央郵便局・福井本丸ライオンズクラブ・
協賛 福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会
熊本市

令和独楽吟―橘曙覧顕彰短歌コンクール―について

（募集期間 令和五年九月一日～十一月三十日）

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。

曙覧が詠んだ一連の作品に『独楽吟』^{どくらくぎん}があります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた、五二首の連作の短歌で、日常生活の中に楽しみを見つけ心豊かに生きた曙覧の心情が詠み込まれています。

平成六年、当時の天皇后陛下がご訪米された折、クリントン大統領が歓迎スピーチにおいて、「たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の一首を引用したことで、『独楽吟』に注目が集まりました。

この翌年より、曙覧に倣った短歌のコンクールを始め、「独楽吟部門」として生活の中で感じた身近な楽しみを詠んだ歌を、「自由短歌部門」として正岡子規に絶賛され、革新的な和歌を詠んだ曙覧にちなみ自由詠の短歌を、全国から募集しています。

今回は、独楽吟部門に七九五九首、自由短歌部門に一七一四首、一四六校からご応募をいただきました。

ここに入賞・秀作に選ばれた全作品を掲載いたします。

全国から寄せられた、たのしみの歌、こころの歌をご覧ください。

審査員
独楽吟部門

審査員長

市村 善郎 歌人

橋谷 桂子 童話作家

佐孝 石画 俳人

足立 尚計 歌人

審査員
自由短歌部門

審査員長

福島 泰樹 歌人

加賀 要子 歌人

喜多 昭夫 歌人

足立 尚計 歌人

独楽吟部門

橘曙覧賞

たのしみはローファアの底がすり減ってちよつと社会に近づいたとき

神奈川県 猪野田 涼 奈

独楽吟部門 入賞作品

福井市長賞

たのしみは秋の西日を受け止めて切り絵となりし町を見るとき

愛媛県 青山 和加

福井市教育委員会賞

たのしみは桜にとまるヒヨドリの花粉だらけの顔を見るとき

山梨県 古屋 璃佳

福井新聞社賞

たのしみはきれいな朝の目玉焼きあなたの皿にそっと盛るとき

岩手県 岩泉 美佳子

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみは金曜日の夜真夜中にフライト終えて父帰る時

福井県 山口 偉絆

福井中央郵便局長賞

たのしみはバイクのエンジン遠くから父かどうかを確かめるとき

福井県 森崎 隆太

熊本市賞

たのしみは母の応援「はずかしい」心の中で感謝するとき

福井県 堀澤 樫 太

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは夕暮れを背にしょったまま川にいるコイながめているとき

大阪府 廣 田 秀 和

学校賞

大阪府 賢明学院小学校

福井県 福井県立高志中学校

たのしみは雨の匂いとランドセル背負って駆け寄る君を待つとき

埼玉県 奈良 徹

たのしみはオープン戸に顔つけて膨らむケーキ何度も見るとき

神奈川県 住吉 歩 優

たのしみは子等に頼みし墓守を「おう」と一言笑顔見たとき

福井県 北 畑 たみ子

たのしみは空こえてくるいとこたちわくわくしながら家で待つとき

福井県 松田 早来

たのしみは異なる言語通じ合い自分と相手笑い合うとき

福井県 藪野 翔子

たのしみはホットケーキのいい匂い母の魔法がしみわたるとき

北海道 駒井 嶺哉

たのしみは演奏終えて見わたすと客席いっぱい笑顔咲くとき

福井県 前川 愛莉

たのしみは同級会の幹事して一人一人にあて名書くとき

長野県 小野沢 竹次

たのしみは遠く離れた実家から届く野菜の土香るとき

千葉県 堀 卓

たのしみは猛暑に弱りたる茄子が再び花を付けはじむとき

埼玉県 藤村 光子

たのしみは自転車とまる音のして孫のテノールボイス聞くとき

福岡県 崎山 房子

たのしみは姪の笑顔に在りし日の兄のまなじり重ね見るとき

愛知県 遠藤 雄介

たのしみは中華屋帰りよいどれの父と二人で夜空見るとき

福井県 日比 終和

たのしみは赤色そまるアンタレス一人でながめてひたっている時

大阪府 大野 瑛斗

たのしみはシャツと聞こえる丸付けで裏からわかるイチゼロゼロの時

大阪府 前田 みのり

たのしみは家族みんなで海や山家とはちがう星を見る時

福井県 小酒 奈月

たのしみは夫の手による花入れに季節の香る花生けるととき

千葉県 依田 美保子

たのしみは夕暮れまちか窓の外赤く染まりし電車見るとき

福井県 澤田 結菜

たのしみは「なんでもいれるの」と語り出す祖母の料理を頬張るとき

静岡県 相田 夢音

たのしみは道で見つけたたんぽぽを千切らぬようにすべて吹くとき

神奈川県 養老 悠希

自由短歌部門

橘曙覧賞

空の青さが心に沁みて痛いからイカロスのように落ちていききたい

沖縄県 平岡 しいな

自由短歌部門 入賞作品

福井市長賞

故郷の波止場どこにも船はなくただ背泳の手が天を指す

東京都 梶原大賀

福井市教育委員会賞

脱ぎ棄てたシャツとズボンと靴下が俺の形で寝転がってら

埼玉県 三上一貴

福井新聞社賞

風のない真夏の昼に自転車で僕だけの風作って進む

山口県 横道玄

日本放送協会福井放送局長賞

若き日の熱き思いを見るがごと炎天の空に立葵咲く

鳥取県 塚田和喜

福井中央郵便局長賞

足踏みで稲扱きし遠き日もありき魚沼の米を食みつつ想ふ

福井県 齋藤幸子

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

山雀のかくした種は忘れられわらぶき屋根に咲いたひまわり

岐阜県 田原宣仁

秋祭り地歌舞伎にとぶ大向こう「やおやのマッチャン」「床屋のシンチャン」

愛知県 赤谷敏夫

空をゆく白鳥のこゑ美しきものは励まし合ひて生きをり

宮城県 渋谷史恵

いちまいの花片で薔薇と知るように父のどの言葉も父だった

愛知県 遠藤雄介

その母の大きなお腹撫でながら「おねえちゃんだよ」小さき手の言う

岡山県 信安淳子

惚くるも甘ゆるもいや夕闇にゆるりひらく夕顔の花

福岡県 末次典子

「生きづらい世です」と言いて独楽回す友の太くて傷多き指

岩手県 菊池昌子

定年をおかえし長き道のりを会社があつてここまでこれた

福井県 大崎英次

歩み出す夕日とともに長くなる僕の面影父と重なる

福井県 岩佐多朗

じゃらじゃらと鳴ってるカバンのキーホルダーうるさいけれど思い出だから

岐阜県 鈴木亜依

道の辺にその影落とし高々と鴉揚羽は夏空に消ゆ

奈良県 古山陽一

剪定の鋏に父の握り癖松の手入れに精魂込むる

大分県 木村弘治

閉じぬ眼のまま枯れていく向日葵を見つめるいづれ燃やされる身で

沖縄県 金城理子

祖母の骨ほろり崩れて春昼の火葬場に満つおもかげの音

石川県 渡邊美愛

夕映えのひつじ田おぼろ暮れなずみ知己も疎らとなりし故郷

大分県 坂本洋一

しあわせも涙もありてクリスマスローズの色のマフラーを巻く

静岡県 山下奈美

余命幾ばくもない吾の腕まくら子らが挙ってジャンケンをして

群馬県 外丸幸子

今日もまた「いってきます」と家を出るとどんどん近づく家巢立つとき

岐阜県 市川真帆

大量の雪が融ければ足羽川無傷のままの自転車戻る

京都府 木下晴生

三日月のようにおしゃべりほそくなりひかりのような寝息となりぬ

三重県 服部あや

だぶだぶの腕時計嵌めて在りし日の夫の手首の太さをおもう

福井県 織田香寿子

独楽吟部門 総評

審査員長 市村善郎

独楽吟の「たのしみは」は未来をうたう。と書いたことがある。

いまはこうなのだけれど近い未来はきつとこうなっているだろう、それが楽しみ、という作品がほしいと思ったのだが、今回の橘曙覧賞は「それはこれです」という作品になっている。上句は靴底がすり減ったという事実を述べて過ぎて来た時間を表わし、社会に飛び出すという近い未来を想像している。もうその瞬間に近づいたとき、たのしみなんですよ、と詠う。若さを詠い、未知の希望をうたう。曙覧さんが居られたら手をたたいて下さるかも知れない。

他の入賞作には、短歌の要素である「発見」「驚き」をしつかりつかまえた作品が多い。福井市長賞の「切り絵となった町」はまさしく「発見」で、読者の私を喜ばせてくれた。他にも「花粉だらけのヒヨドリの顔」など楽しい発見が続く。それと入賞作に小中高生の作品が目立ったこと。「いま」しかとらえられない作品が多かったこと、楽しい思いで作品を読ませて頂いたことが嬉しい。

自由短歌部門 総評

審査員長 福島泰樹

受賞は逸したが渋谷史恵さんの「空をゆく白鳥のこゑ美しきものは励まし合ひて生きをり」を読み返し、あゝこんな悪い時代であるからこそ、私たちは肩を叩き合いながら生きてゆかなければならないと思った。そう短歌は、呼びかけ、語りかけ、激励の詩型でもあるのだ。いままで私は正直、若い人と思われ人の作品に辛かった。戦争や労働、歴史や生活、実人生を歌ったもの、言ってみれば軽いものよりは、重たいものに重点をおく選歌を試みてきたからだ。

しかし、今回そうはいかなくなってしまった。受賞作、平岡しいなさんの「空の青さが心に沁みて痛いからイカロスのように落ちていきたい」には、青春の喜びと悲しみ、躍動する生の鼓動が脈打っている。横道玄さん「風のない真夏の昼に自転車で僕だけの風作って進む」も爽快な少年歌だ。

梶原大賀さん「故郷の波止場どこにも船はなくなただ背泳の手が天を指す」は情景が見えて実に美事！三上一貴さん「脱ぎ棄てたシャツとズボンと靴下が俺の形で寝転がってら」は、思わず拍手喝采、内容は実存的、結句「ってら」の投げやりがいい。最も優れた作品は田原宣仁さん「山雀のかくした種は忘れられわらぶき屋根に咲いたひまわり」、この時間と生活の構成の妙は、まさに文学！しかし、イカロスの作に心が揺れた。

受賞のごとば（独楽吟部門）

橘曙覧賞

たのしみはローファアの底がすり減ってちょっと社会に近づいたとき

神奈川県 猪野田 涼 奈

この度は橘曙覧賞を頂き、とても嬉しく思います。高校入学時から履いているローファアの底がすり減っていることに気づき、たくさん歩いて自分が大人へと近づいていることを実感してこの歌を詠みました。これからも今の私の小さな気づきを大切にして短歌を作っていこうと思います。

福井市長賞

たのしみは秋の西日を受け止めて切り絵となりし町を見るとき

愛媛県 青山 和 加

今回はこのような素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。私自身は俳句に取り組んでおり、今回短歌という新たなジャンルで賞を頂けたことを光榮に思うと同時に、高校俳句という枠組みの中で揺らぎがちだった自分の感性に共感していただけとても嬉しいです。経験不足ながら今後も良い作品を作れるよう頑張ります。

福井市教育委員会賞

たのしみは桜にとまるヒヨドリの花粉だらけの顔を見るとき

山梨県 古屋 璃 佳

素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。私は国語の授業で「たのしみは」で始まる独楽吟を学びました。楽しみを見つけた瞬間、私は幸せな気持ちになります。私の部屋から見える桜の木に遊びにくるヒヨドリも私に幸せな時間を届けてくれます。これからもたくさん「たのしみ」を見つけていきたいです。

福井新聞社賞

たのしみはきれいな朝の目玉焼きあなたの皿にそっと盛るとき

岩手県 岩 泉 美佳子

丁寧に卵を割って、きれいな目玉焼きが出来ると思ふと、こんな穏やかな朝がずっと続けばいいと願ったとき浮かんだ歌です。今回の受賞はこれからの大きな励みになります。ありがとうございます。

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみは金曜日の夜真夜中にフライト終えて父帰る時

福井県 山口 偉 絆

この度は素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。受賞を知った時は、大変驚きました。父に報告したところ、心から喜んでくれ、僕もうれしかったです。僕は父のためによんだので受賞できて良かったです。大好きな父が出張から帰ってくるのを待っている時の僕の気持ちをよみました。これからも和歌をよんでいきたいです。

福井中央郵便局長賞

たのしみはバイクのエンジン遠くから父かどうかを確かめるとき

福井県 森 崎 隆 太

授業中に書いた作品が入賞したのもとてもうれしいです。父がバイクで出かけて帰ってくる時は、毎回エンジンの音を気にして待っているのです。この短歌を書きました。休日はツーリングをしている人が多く、たくさんバイクのエンジン音を聞くのも楽しみです。

熊本市賞

たのしみは母の応援「はずかしい」心の中で感謝するとき

福井県 堀 澤 樫 太

人は、思春期を迎えると、自分の気持ちと逆のことを言ってしまうのはなぜだろうか。私も中学三年生になり、両親に対して素直になれないことが増えた。しかし、短歌でなら、自分の気持ちを伝えられると思う、これを詠んだ。

このような素晴らしい賞をいただいたことの報告とともに、感謝の気持ちを真っ直ぐ伝えたい。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは夕暮れを背にしょったまま川にいるコイながめているとき

大阪府 廣 田 秀 和

ぼくは、受賞をうけて、正直、すごくビックリしました。でもその衝撃と、喜びの感情が混ざって、でもやっぱり、喜びのほろがとおきく、様々な感情がこみ上げてきました。小学校六年間の最後にこのような賞をいただき光栄ですし、誇りのように思います。このたびはこのような賞に選んでいただき、感謝しております。

学校賞

大阪府 賢明学院小学校

本校は「自分の思いを『ことば』で表現できる児童」の育成を目指し、読書感想文や日記、詩など様々な表現に取り組んできました。応募にあたり、ふとした楽しみをどう伝えるか試行錯誤し、好きなことや努力したことが素直な言葉で表現できました。今後も豊かな表現を目指して取り組んでまいります。

(教諭 溝本 いつか)

福井県 福井県立高志中学校

この度は学校賞を賜り、ありがとうございます。本校は県内広域から多様な生徒が集まり、その特色は国語の授業で行われる短歌創作にも表れ、様々な感性が見られる機会となります。「本当にその言葉がぴったりなのか」と苦しんだ生徒ほど歌をつくることに夢中になるので、生徒もこのコンクールを楽しみにしています。

(国語科主任 中山 恵里子)

受賞のごとば（自由短歌部門）

橘曙覧賞

空の青さが心に沁みて痛いからイカロスのように落ちていきたい

沖縄県 平岡 しいな

色々思い悩んでいた時、お風呂場の窓から見えた空があまりにも青く、私には眩しすぎると感じた気持ちを詠みました。届いた封筒も青色で、青は私に様々な事を教えてくれます。素晴らしい賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。

福井市長賞

故郷の波止場どこにも船はなくなただ背泳の手が天を指す

東京都 梶原 大賀

「感情」と「具体性」を取り除いてみようと思いましたが。テクスチャーに乏しく抽象的、しかしそれゆえに無数の解釈を許すような、複線的な歌ができました。短歌は不思議だらけです。それぞれの故郷、それぞれの海や手の光景が、無限の映像として読む人に浮かぶような喚起をこの歌が担うことができれば、うれしい限りです。

福井市教育委員会賞

脱ぎ棄てたシャツとズボンと靴下が俺の形で寝転がってら

埼玉県 三上 一貴

この大変な状況の中で、この様な素晴らしい賞を頂けた事に感謝しか有りません。「自分らしさって何だろう」という二十歳の俺からの問いに、少しだけ答えを出した様な、そんな一首となりました。評価して頂けた事がとても嬉しいです。

福井新聞社賞

風のない真夏の昼に自転車僕だけの風作って進む

山口県 横道 玄

この度は、福井新聞社賞ありがとうございます。とても、嬉しいです。今年の夏は、猛暑が続きました。夏休みに風のない太陽だけが元気な部活からの帰り道、自転車で進む僕だけが風の中にいたその時の光景を短歌にしました。

学校生活などをまた短歌にしてみたいと改めて思いました。
ありがとうございました。

日本放送協会福井放送局長賞

若き日の熱き思いを見るがごと炎天の空に立葵咲く

鳥取県 塚田和喜

この度は賞を頂き有難うございます。この歌は炎天下の道路脇に咲いた立葵を詠んだものです。

学生の頃は夏の暑さも苦にせずによく学びよく遊んだものでした。まさに太陽の下に十八歳があったのです。今、七十五歳となり、花を見てときめく心は小さくなりましたが、昔を重ねて歌を詠みたいと思っております。

福井中央郵便局長賞

足踏みで稲扱きし遠き日もありき魚沼の米を食みつつ想ふ

福井県 齋藤幸子

入賞のお知らせありがとうございます。独楽吟には毎年応募しておりますが、久々の入賞でつづけてよかったと思っております。短歌の道に入って五十年これからもつづけます、ご指導の程よろしくおねがい申し上げます。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

山雀のかくした種は忘れられわらぶき屋根に咲いたひまわり

岐阜県 田原宣仁

山雀（ヤマガラ）は植物の種を貯食します。食べ忘れた種がわらぶき屋根から芽を出し、ひまわりの花が咲きました。豊かな自然と、季節の移り変わりと、ユーモラスな景色を見て微笑んでいる自分を詠いました。短歌を始めてまだ一年ですが、このような賞を頂くことができて光栄です。

〈独楽吟部門〉旧名称 平成独楽吟部門

橘曙覧賞受賞作品 (第19回～28回)

第28回 (令和4年度)

福井県 牧野大悟

たのしみは大工を継いで父と祖父親子三代作業するとき

第27回 (令和3年度)

石川県 吉本渚星

たのしみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき

第26回 (令和2年度)

広島県 光岡 碧

たのしみは失敗しても父さんが頭ポンポンなぐさめるとき

第25回 (令和元年度)

神奈川県 井上 靖

たのしみは継ぐとは言わず真っ先に店のシャッター子が開けるととき

第24回 (平成30年度)

山形県 湯乃村紘一

たのしみは出来たぞ孫がようやくに杉三代の苗植えるとき

第23回 (平成29年度)

福井県 丸岡里美

たのしみは異国に働く夫の膝帰ればおさなの椅子になるととき

第22回 (平成28年度)

福井県 田中美代子

たのしみは三代目の養子の雪つりに夫と似てきた姿見しとき

第21回 (平成27年度)

福井県 山本 稜

たのしみは祖父のとなりで肩ならべ見よう見まねでろくろする時

第20回 (平成26年度)

神奈川県 中嶋恭子

たのしみは庭に遊べる小鳥らに林檎の皮を厚く剥くとき

第19回 (平成25年度)

福井県 堂島彩愛

たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るとき

第25～28回

第23・24回

第19～22回

〈自由短歌部門・テーマ短歌部門・一般短歌部門〉

橘曙覧賞受賞作品

第28回 (令和4年度)

東京都 石塚明夫

雨粒が硝子を叩く北窓に祖霊の畑の塵れゆく見ゆ

第27回 (令和3年度)

山形県 酒井晴多

「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中

第26回 (令和2年度)

東京都 野村信廣

病床のわれにリンゴを食べさせるあかぎれの手の妻に触れてる

第25回 (令和元年度)

福井県 後藤由美子

亡母が切りたる最後の稲藁を大根の畦にそっとかけゆく

第24回 (平成30年度)

千葉県 小林 功

母の背である日見上げた赤とんぼ今は背負った母と見ている

第23回 (平成29年度)

長崎県 牧野弘志

この道がバージンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

第22回 (平成28年度)

福井県 岩崎大朔

十年前抱いた夢を持ち続け明日もお前と白球を追う

第21回 (平成27年度)

千葉県 河野雅子

車椅子に息子を乗せし老夫婦鴨の群れある岸边押しゆく

第20回 (平成26年度)

千葉県 河野成実

ふるさとの駅をすぎれば車窓より子らの声なき学校の見ゆ

第19回 (平成25年度)

福井県 北野よしえ

台風は過ぎて秋晴れコシヒカリをひとかぶひとかぶ手で起こしやる